

県立病院の課題の整理(論点3)

		埼玉県病院局及び県立病院の視点		委員の視点
		現状及び取組み	課 題	
論点3 県立病院の役割を果たしていく上で最適な経営形態は何か	経営全体	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建設費用や医療機器、医療情報システムの導入、維持管理に多額なコストがかかっているが、増収は追いついていない。 ○ 予算上の制約などから修理対応年限を超えて使用している機器があり、更新を行えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要な医師数の確保が思うように進まず、新たな医療機能をフルに発揮できていない。 ○ 厳しい経営状況の中、中長期的な視点に立った医療機器の購入・更新計画を立案し実施することが難しい。 ○ 精神医療センターは築28年経過し老朽化が進み、今後、建替えの必要性が出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医師確保が難しい中で増収、病床稼働率の向上は困難ではないか。 ○ 新棟（循呼）建設の際に増やした人員コストに対して、見合った増収が得られているのか。 ○ 中長期的な視点に立った、設備更新に要するコストの具体化が必要ではないか。 ○ アクションプランの達成状況の乖離が大きく、個別の課題だけでなく、全体最適を見るため、経営という視点で見るべきではないか。 ○ 既に退職給付引当金など十分に積んでいて、今後、債務超過にはならないか。
	費用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単年度主義や条例上の制約などにより医療機器購入時の契約形態に制限がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療機器保守点検の長期契約化や保守点検まで含めた医療機器購入契約など、コスト削減の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経営形態を変えれば、ある程度自前の努力で運営していくことができるのか。
	人材	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一部の病院では医師が不足している。 ○ 人員に関して必ずしも適正に配置されているとは言えない。 ○ 毎年増員要求しているが、定数があるため要求が通らない。 ○ 事務職員は人事異動により数年で入れ替わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要な医師数の確保が思うように進まず、医療機能をフルに発揮できていない病院がある。 ○ 手当の創設が困難なことから優秀な医師の確保、定着が難しい。 ○ 増員要求から採用まで相当の期間を要し、また希少な資格保持者の採用区分がなく採用・配置が困難である ○ 専門性を持った事務職員の確保・育成が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経営形態を変えれば、ある程度自前の努力で運営していくことができるのか。 ○ 医師確保が難しい中で増収、病床稼働率の向上は困難ではないか。（再掲）